

水稲の生育情報

生育を見て中干しを開始しましょう。

概況 (6月9日 水稲定点ほ場調査結果から)

6月上旬の平均気温は、平年より低く、日照時間は平年並みで推移しました(図1)。

水稲の生育は、前調査(5月28日)では低温や低日照でやや遅めに推移していました。今回の調査でも、平年に比べて草丈はやや低く、茎数もやや少なく推移しており、初期生育が遅れた影響を受けていると考えられます(表)。しかし、全調査ほ場にて、中干し可能な茎数を確保できています。

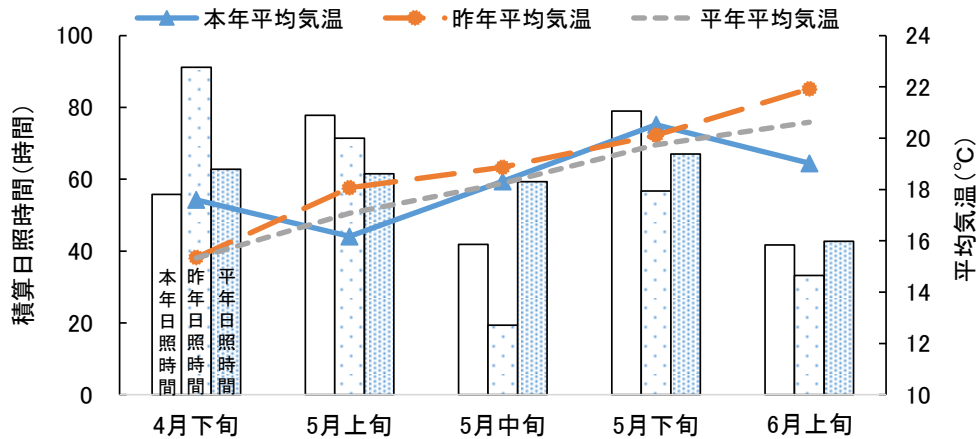


図1 4月下旬から6月上旬までの旬別平均気温と日照時間(古河アメダス)

(注) 平年値は1991年～2020年の平均値

表 定点ほ場の生育調査結果 (令和4年6月9日現在)

品種	調査地点	田植日	植付本数 本/株	栽植密度 株/m ²	草丈 cm	茎数		葉色 葉色板
						本/株	本/m ²	
コシヒカリ	坂東市	4/26	4.6	15.2	39.3 (48.9)	19	358 (554)	4.6 (4.4)
	境町	4/29	4.3	15.2	39.0 (45.8)	24	368 (493)	4.6 (4.7)
	五霞町	5/5	6.9	14.5	38.7 (38.1)	27	386 (379)	4.6 (4.5)
	古河市	5/8	4.7	17.5	37.3 (39.9)	20	347 (406)	4.4 (4.6)

※坂東市はほ場内で部分的に生育が悪い場所があり、調査は1反復。()内は過去5年間の平均値。

今後の栽培管理

茎数を確保したほ場(茎数330~350本/m²以上)では、すぐに中干しを行きましょう。

近年、コシヒカリにおいて、乳白米の発生による品質低下が問題となっています。農業研究所水田利用研究室(龍ヶ崎市)の調査では、籾数増加に伴い乳白米の発生率が上昇することが分かっています(図2)。中干しにより過剰な分けつを抑えることで、総籾数の増加を抑えることができ、乳白米の発生率を減少させる効果が期待できます。

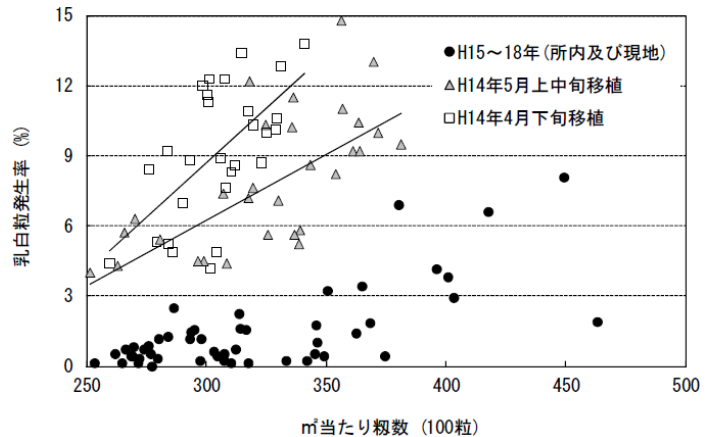


図2 コシヒカリでの乳白米発生率とm²当たりの籾数の関係(水田利用研究室調査、龍ヶ崎市)

[次号は6/20に調査した結果を基に、6/24ごろ発行予定です]